

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202395		
法人名	㈱日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙		
所在地	静岡県清水区草薙1丁目23番16号		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	平成29年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202395-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 28年 12月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム草薙は駅前という事もありとてもお店や公園が多くにぎやかな地域のグループホームです。特別な事は何もしていませんが、「あたりまえの生活」を常に意識し御利用者様とご一緒に過ごしています。最近は季節的にお出掛けがしやすい季節なので外出支援に良く出かけています。中庭での外気浴・町内ホーム周辺散歩・外食支援・動物園・紅葉ドライブ等個別で行かれます。職員に関しては、新人職員が多く毎日バタバタしていますが、皆「御利用者様の為に」を合言葉に日々介護技術・知識・サービス向上に向けて奮闘しています。まだまだ走り出したばかりのチームですが、3年後5年後を視野に入れ指導に力を入れています。今後とも宜しくお願いします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、利用者の生活スタイルの見直しに取り組んでいる。午前中に外気浴・散歩・塗り絵・粘土・歌・体操等で活動的に過ごし、毎朝ヨーグルトを食すことや適切な水分摂取により便秘の改善を図り夜間の尿量の減少に繋がっている。熟睡する利用者が増え、夜勤職員の負担軽減になっている。職員は時間に追われるのではなく、ゆったりと利用者の様子を観察しながら穏やかに声掛けし雑談の中や表情から思いや意向を把握し共有している。地域住民や学生・協力医の事務職員等、ボランティアの訪問が多く、高校生の園芸ボランティアが月2回野菜や花壇作り、おやつ作りに来て一緒に収穫・調理をして楽しんでいる。時間枠に捕らわれず個別ケアを重視して、夜は職員と一緒にテレビを見て過ごす人もいてその人にあった対応をしてくれる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については昨年度話し合いの場を設けたが、今年度は継続する方向となった。	法人の「その人、そのために」ホームの「その日その時その一瞬を愛と笑顔と輝きで」の理念を2ヶ月ごとの全体会議で共有している。一人一人の思いの違いを統一し「利用者の為に」をモットーに同じ方向を向いて取り組んでいけるような体制作りを始めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と共に回覧板を届けてきたり近所の農家から生花・果物・野菜などを購入したりバザーに出掛けたりしている。また、ご近所様から申し出がありボランティアの受け入れもしている。	頻繁に散歩や買い物等に外出する機会を設け、近所の人に顔を覚えてもらっていて「ボランティアに行きたい」と来訪している。近くの高校生が畑や花壇、おやつ作りで利用者とは交流している。地域の情報を活用し老人センターのコンサートに行く等している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域資源の利用という意味でも散歩を通じご近所の方々との挨拶や個人商店での買い物をする事で理解して頂く機会を増やしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催日にイベント(防災訓練・音楽レクリエーション・日本舞踊・バイオリン演奏等)を組み込む事により日頃の活動・職員の対応・御利用者様の様子が把握しやすくなり具体的な意見も出て来ると考えている。	包括職員・家族・利用者・地域の住民等毎回揃うわけではないが、2ヶ月に1度開催している。利用者の状況や事業所での近況報告をし参加者から意見や感想など聞いている。事業所と家族や地域住民との関係は良いが会議への参加は少ない。	家族や事業所と関わってくれる地域のメンバー等にも声掛けし、参加できる日程の取り方や議題の工夫をして、ホームへの理解や意見を聞けるような会議になるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡、訪問時を通じてホームの実情やサービスの取り組み状況を伝え協力体制は良好である。	利用者のほぼ半数が生活保護受給者で、生活支援課の担当職員とは常に連携をとっている。高齢者介護課の職員に制度のことやプランの相談にのってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準での対象となる行為は今年度もしていないが、離床センサーに関しては1F 1名 2F 2名使用している。(御本人・御家族様にご説明し同意を得ている)	内部研修を行い、職員は目に見える拘束だけでなく、言葉や態度での拘束を理解し利用者に対応している。気になる発言や態度を見たときは管理者からその都度注意している。ヒヤリハットや事故事例をモニタリングして検討し対策を講じて対応している。	

静岡県(グループホーム 草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の虐待が見逃される事がないように注意しすぐに管理者に報告。必要と感じた時はカンファレンスなどで話あったりする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状として1名の御利用者様がりようしている。その他の御利用者様は必要に応じて利用を検討していくが今の所必要はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	毎回契約時は時間に余裕を持ち御家族様の目線でご説明させて頂いてる。質問時間を項目ごと取るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の御面会時や運営推進会議・電話連絡の時などにお話をして意見・要望をお聞きし参考にしてている。	家族アンケートを実施し、家族から意見を聴く機会としているが、運営に関する内容のものは無かった。面会に来た家族にお茶を出し声掛けし、話し易い雰囲気づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの時は勿論だが、随時話し合いをし意見や提案を聞きようになっている。	職員は「利用者第一」に考え、会議時のみではなく日常的に管理者やリーダーに意見や提案をしている。「みかん狩りに行ってみたい」「シャワー浴の人を浴槽に浸らせてあげたい」等職員で話し合い反映させている。フロア会議や全体会議の議事録は全体で閲覧している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の能力に差があるのは仕方ないが、皆が同じように働けるように業務を見直している。しかし、気付き・理解力・意識に個人差がある為日々の業務にむらが出まう時がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては案内を掲示し希望者がいれば受講する。職員個人の得意分野を生かせるようにしていきたい。		

静岡県(グループホーム 草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な勉強会に参加して同業者交流活動を通じサービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで職員が把握し、その後御本人様との会話の中から情報を集め少しでも早く生活になじむように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様からの不安を話し合う時間を大切に、要望に関しては可能な限りお話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中である程度 of 生活スタイルをお伝えし、ご理解と同意を求め一ヶ月後のカンファレンスにて方向性を定める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームに来たらまずは挨拶をし言葉を交わし同居している家族の様に接して生活するように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連携し普段の様子・体調の変化・御本にからの要望を随時お伝えし信頼関係に勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御面会に来られた友人からお手紙や電話があった時にすぐに連絡を取れる様にしている。	ハワイから来た親族が1週間毎日のように面会に訪れ他の利用者と食事を共にしたり、居室での散歩をして過ごしていた。以前からの宗教を続けている人に信者の訪問がある。職員は利用者同士やボランティアで訪れてくれる人たち等新しい馴染みの関係作りの支援をしている。	

静岡県(グループホーム 草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別の関わりはもちろんです、2～3人の小集団で散歩や外出・日光浴をされたりレクやカレンダー作りの貼り絵・塗り絵をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御本人が退所された後も、御家族様・御本人様との関係はいつまでも大切にしていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様との会話の中から御本人の思い・要望・不安・不満を聞き出してカンファレンスにて職員全員で検討している。	日常的な雑談や観察の中で「何でだろう」と疑問を感じてアセスメントをする姿勢を大切にしている。職員は余裕を持った対応を心掛け、言葉に出せない思いをくみ取り検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の初回アセスメントだけでは不十分な為、生活していく中で御本人の希望に添える様に努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理は勿論の事、担当職員を中心に御利用者様の情報を集め一人一人のリズムに合わせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに対しては個々のニーズによりサービス内容が異なるが、頻度としてはほぼ達成出来ている。	3ヶ月か6ヶ月ごとにモニタリングをし会議で話し合いをしている。状態に変化があった時(看取り・入院を含む)家族が参加し担当者会議を開いて今後の方向性を決めケアプランを作成している。家族と話し合って説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関してはなるべく職員の動線が短くなるような工夫とチェックしやすさなどを考慮して随時変更している。モレが完全になくなるように精度を上げる様にしていきたい。		

静岡県(グループホーム 草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	音楽・歌・踊り・園芸等のボランティアの協力もありホーム内のイベントや野菜の収穫等利用者の生活は向上している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや学校の行事等に職員と出掛け参加されている。また、散歩やお出かけでスーパーや公園に出掛け日常生活に楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1人1人に迅速に対応してくれる主治医がいる。入所する前からかかりつけ医に定期受診や往診を受けている方もいる。毎週お見えになる方が対応して下さる場合もある。特にアドバイスを受けている。	入居時の説明で協力医に変更する人が多いが、以前からの主治医に家族対応で受診する人もいる。毎日利用者の誰かの往診があり、利用者の体調に応じて定期以外でも対応が可能である。転倒時に車にレントゲンを積んで来てくれ素早い対応ができた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週訪問看護師が来て薬の確認・体調の相談を聞いて下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	御利用者様が入院した時は搬送先の医師・看護師と病状等を確認し退院後は主治医や訪問看護師の指示を受けたり相談しながらホームでの生活支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては新規に入所される時に御本人様・御家族様にホームの現状や方向性等を伝え意向をお聞きしている。身体レベルが低下してきた場合は、主治医・訪問看護師の助言を受けながら御家族様と話し合いをしている。	入居時に指針の説明をし確認書をもっている。身体レベルが落ちてきたら、医師・看護師・家族・管理者・職員で担当者会議を開き、家族の意向を取り入れて方針を統一している。看取り計画を立て対応する仕組みになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、日常的に話し合いの場を求めたり、申し送りやカンファレンス・ミーティング等で勉強会も兼ねて進めている。		

静岡県(グループホーム 草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年防災訓練を消防署職員に御指導頂きながら実施している。今後は風水害避難訓練を予定している。	年2回の訓練の他、1階の人は玄関まで、2階の人はベランダまで1箇所に集める避難訓練を不定期・突発的に行っている。職員を交代で夜勤役にし夜間想定訓練も実施している。地域防災訓練に利用者の行ける人と参加し自治会長に地域の人の協力を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や排泄・入浴時のプライバシーは勿論の事、目上の方から常に話を聞かせて頂いているという意識を持ち接している。	管理者は職員に「主人公は利用者である」とその人に合わせた声掛けや言葉使いで対応をするように伝え、職員は大きな声を出さず焦らせず穏やかに接している。気になる場面を見たときはその場で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にを選択しを増すような声掛けを心掛け、御利用者様に選んで頂くように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様の想いや気持ちを大切にしているが、まだまだ十分とは言えない。少しずつではあるが御利用者様全員の希望に添えるようにしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に関しては出来ている。しかし、お出かけする時にお化粧をしたりアクセサリーを身に付けるなどは出来ていない。ご本に伺っても遠慮するのでそのまま出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレートで焼きそばを焼いたり、土鍋を使いおでんを作って食べたり、庭で採れた野菜をそのまま食べたり、食事に関しては様々なイベントを実施している。	できる人が調理の手伝いや下膳・食器洗い・拭き等している。畳スペースで正座して食べる人もいる。バイキング方式にしたり楽しみのある支援をしている。職員は同じテーブルで会話をしながら同じものを食べ、食べこぼしなどある方もビニールエプロンは使用していない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食材10品目を心掛けている。水分量に関してはバラつきもあるが、1000cc/日程は摂取出来ている。夏は手作りゼリー・冬はみかん等工夫している。		

静岡県(グループホーム 草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを個々に合った歯ブラシ等で実施。ブラッシング方法を見直し口腔状態の改善に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合った間隔で声掛けトイレ誘導を実施している。拒否がある場合もその時に合った声掛けコミュニケーションを図り御利用者様が不快にならないようしている。パターンを知りトイレで排泄出来る様にしている。	午前中に活動量を増やしたことで生活リズムが整い熟睡できるようになった結果、夜間の尿量が減りトイレ誘導が少なくなった。毎朝ヨーグルトを食べ、身体を使う活動と水分摂取で便秘の人が減少している。リハビリパンツの人も誘導しトイレでの排泄をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	脱水・便秘予防として水分は1ℓ/日は飲んで頂くようにしている。排便コントロールについては主治医・訪問看護師と相談しながら調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心・安全に努めている。一人一人にあった入浴方法を実施。その日に気が進まない方に対しては翌日等に変更をして入って頂く。お湯や入浴剤を個々に変えてリラックスして頂く。	「入浴」ではなく「お風呂に入る」が自然な言葉ではと職員が意識を変え検討したことで、シャワー浴だった人も全員が浴槽に浸かれるようになった。檜の廃材や入浴剤を入れて会話を楽しんでいる。拒否する人は楽しく会話しながら浴室まで行き、お風呂に入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯、入眠しやすいような環境作りに努めている。衣類・掛物・室温・加湿(冬場のみ)に心掛け体調管理に繋がるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後、服薬管理については徹底し服薬して頂いている。薬が変更になった場合もその後の様子を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前のラジオ体操から始まり、外気浴・散歩・外出をして頂き気分転換してもらっている。午前中は比較的活動的に過ごして頂き午後はゆっくり過ごす時間を作っている。また、食器拭き・洗濯物干したたみ・掃除・おやつ作り等家事援助にも参加して頂いている。		

静岡県(グループホーム 草薙)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気を吸いたいと望む御家族も多い為、天気の良い日は散歩や近所のスーパーに買い物に行くことにしている。また、最近では園芸市・回転すし・中学バザー・紅葉ドライブ・動物園外出に参加している。	出来るだけ外へ出ることを意識し、花壇の花を見てお茶を飲みながら外気浴をしたり、散歩や無人販売・近くの店へ買い物に行っている。車椅子ごと体重が量れる保健所や老人センター等、天候を見ながら気軽にドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用様が個人で金銭管理している方は、2名程いるがその他の方は事務所の金庫で「預り金」として管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者さまが、御家族様・ご友人と電話や手紙などで連絡を取りたい時はご自由にとって頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や各居室の入り口などにホーム内のレクで作った季節感のある飾りなどを展示している。御利用者様に室温の加減を伺い調整するなど居心地よく過ごせるように心掛けている。	利用者が毎月制作したカレンダー、クリスマスツリーや作品から季節が感じられる。広いオープンキッチンから調理の匂いが漂い、畳スペースは食事や寛ぎの場になっていて、座席は指定せず好きな場所で自由に過ごしている。エアコンと加湿器で温度・湿度を管理し、快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人の時間を過ごされたい時は自室に戻られテレビを観たり静養されたりして過ごされている。最近では今の畳にテーブルを置き気の合った御利用者様同士会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具・思い出の写真等を飾られている方が多いです。しかし中には家具が少ない方もいるので工夫しより居心地の良い居室にしていきたいです。	入り口に利用者手作りのクリスマスリースが掛けてある。入居以前の習慣を継続し、座って仏壇に手を合わせられるように敷き畳にしている。担当職員が利用者と一緒に壁掛けに作品や写真を飾り、広い収納スペースを利用して整理整頓して居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者様のそれぞれご自分で出来る事はして頂いている。配膳・食器拭き・洗濯物たたみ・掃除等、役割があり日課となり生活出来ている。御利用者様も手伝う事があって嬉しいとの事です。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202395		
法人名	㈱日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙 (2階)		
所在地	静岡県清水区草薙1丁目23番16号		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	平成29年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202395-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 28年 12月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム草薙は駅前という事もありとてもお店や公園が多くにぎやかな地域のグループホームです。特別な事は何もしていませんが、「あたりまえの生活」を常に意識し御利用者様とご一緒に過ごしています。最近は季節的にお出掛けがしやすい季節なので外出支援に良く出かけています。中庭での外気浴・町内ホーム周辺散歩・外食支援・動物園・紅葉ドライブ等個別で行かれます。職員に関しては、新人職員が多く毎日バタバタしていますが、皆「御利用者様の為に」を合言葉に日々介護技術・知識・サービス向上に向けて奮闘しています。まだまだ走り出したばかりのチームですが、3年後5年後を視野に入れ指導に力を入れています。今後とも宜しくお願いします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については昨年度話し合いの場を設けたが、今年度は継続する方向となった。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と共に回覧板を届けてきたり近所の農家から生花・果物・野菜などを購入したりバザーに出掛けたりしている。また、ご近所様から申し出がありボランティアの受け入れもしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域資源の利用という意味でも散歩を通じご近所の方々との挨拶や個人商店での買い物をする事で理解して頂く機会を増やしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催日にイベント(防災訓練・音楽レクリエーション・日本舞踊・バイオリン演奏等)を組み込む事により日頃の活動・職員の対応・御利用者様の様子が把握しやすくなり具体的な意見も出て来ると考えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡、訪問時を通じてホームの実情やサービスの取り組み状況を伝え協力体制は良好である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準での対象となる行為は今年度もしていないが、離床センサーに関しては1F 1名 2F 2名使用している。(御本人・御家族様にご説明し同意を得ている)		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の虐待が見過ごされる事がないように注意しすぐに管理者に報告。必要と感じた時はカンファレンスなどで話あったりする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状として1名の御利用者様がりようしている。その他の御利用者様は必要に応じて利用を検討していくが今の所必要はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	毎回契約時は時間に余裕を持ち御家族様の目線でご説明させて頂いてる。質問時間を項目ごと取るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の御面会時や運営推進会議・電話連絡の時などにお話をして意見・要望をお聞きし参考にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの時は勿論だが、随時話し合いをし意見や提案を聞きようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の能力に差があるのは仕方ないが、皆が同じように働けるように業務を見直している。しかし、気付き・理解力・意識に個人差がある為日々の業務にむらが出してしまう時がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては案内を掲示し希望者がいれば受講する。職員個人の得意分野を生かせるようにしていきたい。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な勉強会に参加して同業者交流活動を通じサービス向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで職員が把握し、その後御本人様との会話の中から情報を集め少しでも早く生活になじむように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様からの不安を話し合う時間を大切に、要望に関しては可能な限りお話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中である程度 of 生活スタイルをお伝えし、ご理解と同意を求め一ヶ月後のカンファレンスにて方向性を定める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームに来たらまずは挨拶をし言葉を交わし同居している家族の様に接して生活するように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連携し普段の様子・体調の変化・御本にからの要望を随時お伝えし信頼関係に勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御面会に来られた友人からお手紙や電話があった時にすぐに連絡を取れる様にしている。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別の関わりはもちろんです、2～3人の小集団で散歩や外出・日光浴をされたりレクやカレンダー作りの貼り絵・塗り絵をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御本人が退所された後も、御家族様・御本人様との関係はいつまでも大切にしていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様との会話の中から御本人の思い・要望・不安・不満を聞き出してカンファレンスにて職員全員で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の初回アセスメントだけでは不十分な為、生活していく中で御本人の希望に添える様に努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理は勿論の事、担当職員を中心に御利用者様の情報を集め一人一人のリズムに合わせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに対しては個々のニーズによりサービス内容が異なるが、頻度としてはほぼ達成出来ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関してはなるべく職員の動線が短くなるような工夫とチェックしやすさなどを考慮して随時変更している。モレが完全になくなるように精度を上げる様にしていきたい。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	音楽・歌・踊り・園芸等のボランティアの協力もありホーム内のイベントや野菜の収穫等利用者の生活は向上している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや学校の行事等に職員と出掛け参加されている。また、散歩やお出かけでスーパーや公園に出掛け日常生活に楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1人1人に迅速に対応してくれる主治医がいる。入所する前からかかりつけ医に定期受診や往診を受けている方もいる。毎週お見えになる方が対応して下さる場合もある。特にアドバイスを受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週訪問看護師が来て薬の確認・体調の相談を聞いて下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	御利用者様が入院した時は搬送先の医師・看護師と病状等を確認し退院後は主治医や訪問看護師の指示を受けたり相談しながらホームでの生活支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては新規に入所される時に御本人様・御家族様にホームの現状や方向性等を伝え意向をお聞きしている。身体レベルが低下してきた場合は、主治医・訪問看護師の助言を受けながら御家族様と話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、日常的に話し合いの場を求めたり、申し送りやカンファレンス・ミーティング等で勉強会も兼ねて進めている。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年防災訓練を消防署職員に御指導頂きながら実施している。今後は風水害避難訓練を予定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や排泄・入浴時のプライバシーは勿論の事、目上の方から常に話を聞かせて頂いているという意識を持ち接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも選択しを増すような声掛けを心掛け、御利用者様に選んで頂くように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様の想いや気持ちを大切にしているが、まだまだ十分とは言えない。少しずつではあるが御利用者様全員の希望に添えるようにしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に関しては出来ている。しかし、お出かけする時にお化粧をしたりアクセサリーを身に付けるなどは出来ていない。ご本に伺っても遠慮するのでそのまま出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレートで焼きそばを焼いたり、土鍋を使いおでんを作って食べたり、庭で採れた野菜をそのまま食べたり、食事に関しては様々なイベントを実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食材10品目を心掛けている。水分量に関してはバラつきもあるが、1000cc/日程は摂取出来ている。夏は手作りゼリー・冬はみかん等工夫している。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを個々に合った歯ブラシ等で実施。ブラッシング方法を見直し口腔状態の改善に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合った間隔で声掛けトイレ誘導を実施している。拒否がある場合もその時に合った声掛けコミュニケーションを図り御利用者様が不快にならないようしている。パターンを知りトイレで排泄出来る様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	脱水・便秘予防として水分は1ℓ/日は飲んで頂くようにしている。排便コントロールについては主治医・訪問看護師と相談しながら調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心・安全に努めている。一人一人にあった入浴方法を実施。その日に気が進まない方に対しては翌日等に変更をして入って頂く。お湯や入浴剤を個々に変えてリラックスして頂く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯、入眠しやすいような環境作りに努めている。衣類・掛物・室温・加湿(冬場のみ)に心掛け体調管理に繋がるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後、服薬管理については徹底し服薬して頂いている。薬が変更になった場合もその後の様子を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前のラジオ体操から始まり、外気浴・散歩・外出をして頂き気分転換してもらっている。午前中は比較的活動的に過ごして頂き午後はゆっくり過ごす時間を作っている。また、食器拭き・洗濯物干したたみ・掃除・おやつ作り等家事援助にも参加して頂いている。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気を吸いたいと望む御家族も多い為天気の良い日は散歩や近所のスーパーに買い物に行くことにしている。また、最近では園芸市・回転すし・中学バザー・紅葉ドライブ・動物園外出に参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用様が個人で金銭管理している方は、2名程いるがその他の方は事務所の金庫で「預り金」として管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者さまが、御家族様・ご友人と電話や手紙などで連絡を取りたい時はご自由にとって頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や各居室の入り口などにホーム内のレクで作った季節感のある飾りなどを展示している。御利用者様に室温の加減を伺い調整するなど居心地よく過ごせるように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人の時間を過ごされたい時は自室に戻られテレビを観たり静養されたりして過ごされている。最近では今の畳にテーブルを置き気の合った御利用者様同士会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具・思い出の写真等を飾られている方が多いです。しかし中には家具が少ない方もいるので工夫しより居心地の良い居室にしていきたいです。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者様のそれぞれご自分で出来る事はして頂いている。配膳・食器拭き・洗濯物たたみ・掃除等、役割があり日課となり生活出来ている。御利用者様も手伝う事があって嬉しいとの事です。		